



## ④システム構想 -従来の図書館機能の拡張-

従来機能に先進的なデジタル技術を取り込むことで時代に合ったサービスを拡充する

### 従来機能の継承と改善

#### 業務システムの強化(※)

- ・ 検索機能の強化
- ・ 業務システム-デジタルアーカイブ連携
- ・ レファレンス業務のデジタル化
- ・ RPA活用等による入力作業自動化

#### IT環境の整備による業務効率化

- ・ 高速ネットワークの構築
- ・ タブレット、インカム等の活用

(※)公共図書館向けパッケージをベースに従来機能を継承・改善を想定

### 情報発信・入手手段の多様化

#### デジタルアーカイブ

- ・ 国際標準(IIF)への対応
- ・ 高精細画像への対応



#### オープンデータの推進

- ・ クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示など二次創作の支援強化

#### 外部連携の強化

- ・ ディスカバリーサービスなど情報収集・発信の強化
- ・ NDLサーチ、ジャパンサーチとの連携

## ⑤システム構想 -アフターコロナ対応-

アフターコロナ時代への対応

### アフターコロナ対応

#### 予約棚、自動貸出・返却機の設置

- ・ 非対面での貸出・返却の実現

#### 電子図書館

- ・ 場所を選ばない図書閲覧の実現
- ・ リーディングブックなど視覚以外の五感を活用したサービスの提供

#### 利用者登録

- ・ スマートフォンなどモバイル端末を活用した利用者登録機能の拡充

#### 電子マネーの導入

- ・ 現金の授受を必要としない非接触での決済サービスの導入



## ⑥システム構想 -新技術の導入-

新たに技術・環境を整えることで県民にとってより魅力的な図書館を実現する

### AI技術の活用

#### AI-OCRを活用した文字起こし

県が持つ資料や古文書や古典籍のくずし字などを解析し、資料内の文字検索を実現

#### 多要素認証の活用

多要素認証による高セキュリティなサービスの提供

#### ロボットの活用

利用者だけでなく職員の働き改革のサポートを実施  
(例：蔵書点検、自宅から遠隔操作ロボットなど)

#### 映像分析

映像から人や車の流れや混雑などの傾向を分析し、図書館運営のサービス改善に活用

#### 利用者の属性に合わせたサービス提供

本人同意を前提に利用者の属性情報を活用し、利用者に寄り添ったサービスを提供

### 新たな文化の創出・発信

#### 創造活動のための環境

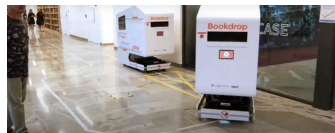
3DプリンターやB0に対応した大判プリンターなどの機器、youtubeや音楽ライブ等の映像作成・配信が出来るスタジオ、オンライン会議やセミナーが出来る環境を提供  
県民から寄贈される創造活動・創造物等のデジタルデータを収集・保存・提供出来るシステムの整備

#### 県民参加型デジタルライブラリー

静岡県の街並みなどの写真や情報を共有出来る県民参加型のサービスを提供  
図面やレシピといった県民の創造活動の中でうまれた知的財産を本人同意のもとデジタルデータ化して公開

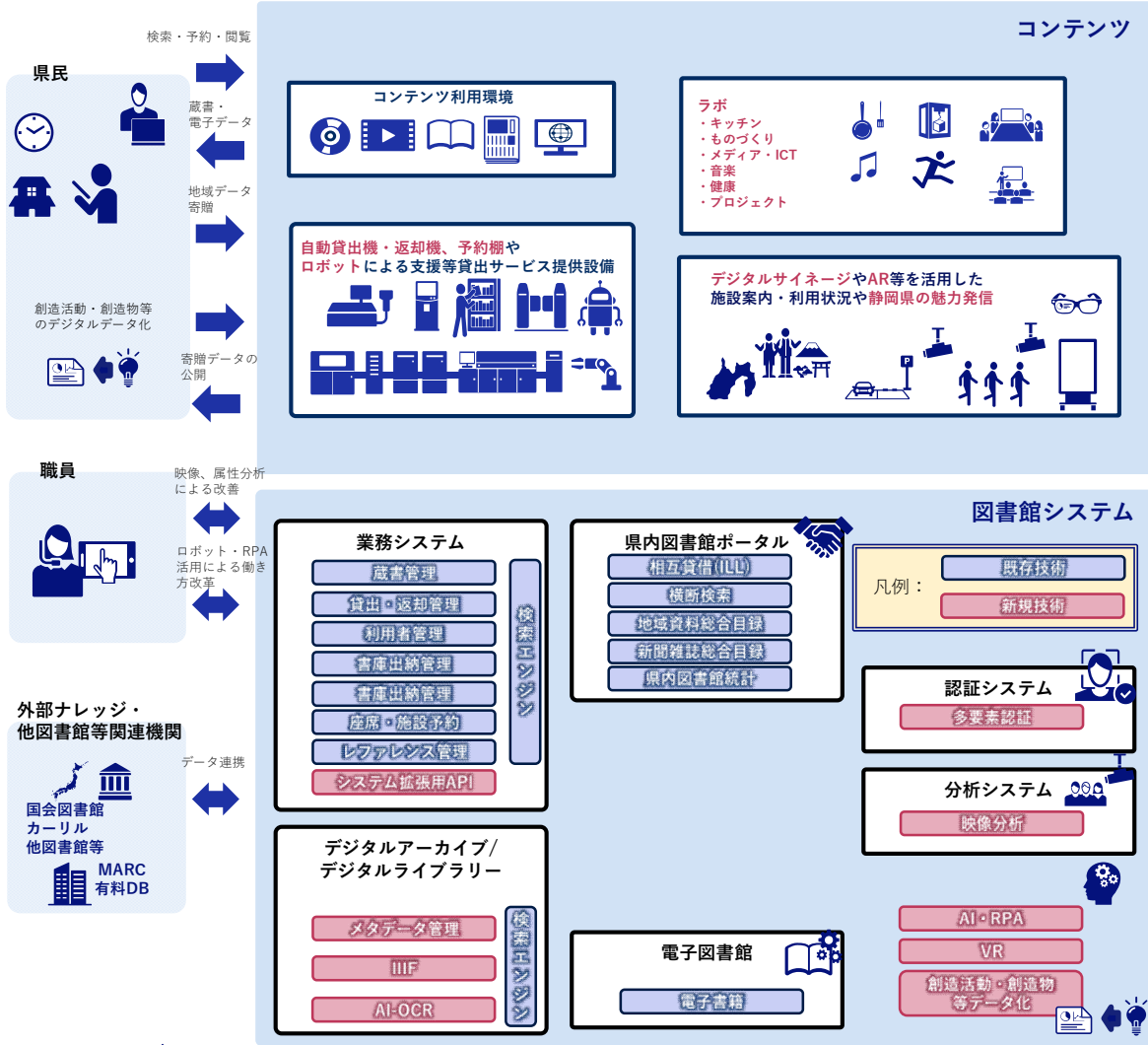
#### デジタルサイネージ、AR、VRを活用した魅力の発信

図書館のお知らせ以外に静岡県の施設や伝統技術などの魅力をわかりやすく発信



# ⑦新県立中央図書館が目指す図書館システム全体概要

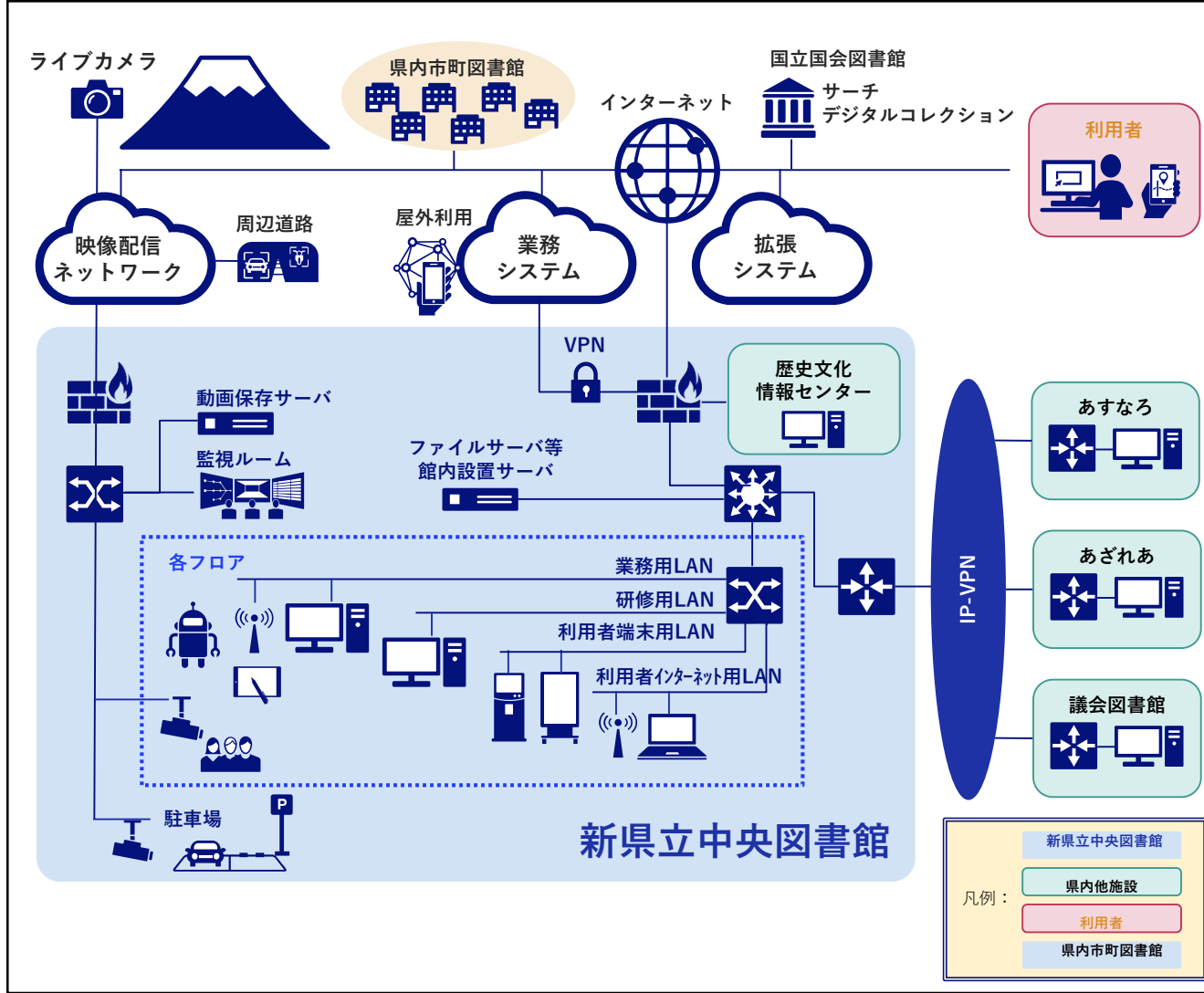
生涯学習施設としての機能を持ちつつ、未来の図書館に求められる地域振興の場を県民に提供する



- 県民は時間や場所に縛られず資料の検索や閲覧が可能
- 様々な創造活動を行うラボを提供し県民の創造活動を支援
- 創造活動・創造物等デジタルデータや地域データの収集、多様な機関と連携した情報の収集・発信

# ⑧システム構成イメージ

館内には高速ネットワークを導入し、今後のデジタルコンテンツの利用拡大にも柔軟に対応できるようにクラウド環境を活用した図書館システムを検討する



## ⑨導入スケジュール

開発システムに応じた最適な開発手法を選択することで、時代に合った技術へ柔軟に対応する

### [業務システム開発]

- ・業務システムや大量のデータを扱うデータベースについては上流工程できちんと要件定義を行った上で開発するウォーターフォール開発を採用する。
- ・R7年度までに業務システムの開発を完了する。その際に外部連携用APIを用意することで、後から拡張システムがデータベース等に容易に接続出来る環境を準備する。
- ・R8年度以降は運用保守フェーズとして拡張システムとの連携を行う。

### [拡張システム開発]

- ・アプリ開発やSNSとの連携等、情報発信や外部連携機能などアジャイル手法が向いているものはR8年度以降に開発を行い最新技術を柔軟に取り入れる。
- ・拡張システムはシステム毎に分割して並行して開発を行う。
- ・開館まで設計、開発、内部評価向けリリースを繰り返し開発を行う。開館後に正式公開する。
- ・開館準備まで有識者から意見を頂戴し、広い視野で最新技術を把握する。

### [機器等調達、ICタグ整備]

- ・R9年度の新システム稼働までに新機器の導入、ICタグの整備を行う。

	R5年度				R6年度				R7年度				R8年度				R9年度				R10年度
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~
共通	有識者ヒアリング												開館準備				業務システム運営				
業務システム開発 (ウォーターフォール型)	RFI		入札				★ 外部連携仕様書作成 (拡張システム連携)				★ 新システム稼働				業務システム運用保守						
拡張システム開発(仮) (アジャイル型)									入札				拡張システム設計・開発				拡張システム公開				
機器等調達 (サーバ、ネットワーク機器、端末機器、クラウドサービス)					入札				機器等納入												
ICタグ整備	ICタグ貼付・エンコード								入札 (BDS等機器調達)				BDS等機器納入								